



日なたぼっこをしているヘビとよく出会う季節になりました。

ヘビやトカゲなどは日光浴が大好き。変温動物という気温によって体温が変化する彼らにとって日光浴は、活動するために体温を上げたり、飲み込んだ獲物を消化する助けになったりと、重要な役割があるのです。

珍しいカラスヘビ

林道で見つけた真っ黒



日なたぼっこ中のシマヘビ（黒化型）



私につかまったジムグリ

のヘビ。「カラスヘビだ！」と興奮しました。「カラスヘビ」とはあだ名のようなもので正式な名前ではありません。シマヘビやアオダイショウなどの中にまれに真っ黒の珍しいタイプが生まれ、カラスヘビと呼ばれますが、多くの場合はシマヘビです。私は林道で日なたぼっこ中のヘビを見つけると、車にひかれずに、捕まえて草むら

へビを見ると思い出す、子ど

巨大ヘビ脱走事件

へ逃しています。というのもうそではありませんが、大半の理由は単純にヘビを触りたいだけです（マムシなど毒を持つヘビもいるのでオススメはしません。毒がなくてもかまれることで感染症にかかる場合もあります）。

もの頃のできごとがあります。小さい頃の私は、さまざまな生き物を捕まえては飼っていました。飼っていたのは虫、魚、ザリガニ、カエルなどなど、挙げたら切りがありません。今思えば、特段生き物が好きというわけでもない両親は、よく反対しなかったなと思います。

ある日、その中に巨大なアオダイショウが加わりました。学

校の帰りに見つけ、腕にグルグル巻きにして連れて帰りました。虫かごに入れたのですが、翌朝、そのアオダイショウは脱走していました。家のどこかに潜んでいるはず。「学校を休んで探さない」と母に言われ、内心「ラッキー！」と思いながら母と二人で探し回りました。見つけたのはカーテンレールの上でした。「こんな所にいたのか、よく登ったねえ」と二人で笑いました。案外早く見つけてしまったので、今から学校に行けと言われるのではないかとヒヤヒヤしましたが、なんとカズル休みに成功したのでした。

PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>

